日曜日にはTVを消せ No.5

★1975.10.19(日)

★特集…なしョ(欽ちゃん凡に)

★制作★PHC-TV
(豊橋-小田原)

★提供★混血桃色通信-PHC
豊橋市植田町清水山3の5
清永荘
藤田 真男=MAO

今日は10月15日。バイトは休みだったので,学校へ行き,今号の印刷をほとんど終えた。最後に表書紙に,まえがきみたいなこをヤリこうと思い,さっきからボンと考えていたところ,今夜は,佐佐木昭一郎の<夢の島少女>が放送されてから,ちょうど1年目の夜であることを思い出し,あれこれともの想う秋の夜長。

今号はTVとは,ほとんど関係ないような,自己満足のみを目的としたミーハー雑誌になってしまって,マジメな読者のみなさんには,申し訳ないと,思っていないのだ。ぼく作る人兼よむ人。いっぺんこういうのを作ってみたかったのじゃ。できればこういうのばかり作っていたいのじゃ。けど,それでは多くの読者を失うことが予想されるので,――まァ,それでもいいのだが――何とかせねばと思っているところです。

今江祥智という児童文学の作家がいます。『絵本の時間 絵本の部屋』とかいうタイトルの彼のエッセー集が,つい先日発行されて,少し立ち読みしたのだけれど,まえがきに,アラゴンの言葉が引用されている。<書く>という行為は,自分のためのものだ,というようなことを,アラゴンは云っていて,あたりまえのようだけど,なんだか,ホッとさせられる考え方です。

今,PHCラジオのカセット・アテープ『都会の二つの顔/ツキアイきれない』を持っている人は,ヘレ次の人へ回送し,ぼくのところリ連絡するべし。このテープのPHーが完了しないことには,PHいとのもラジオ・オ2回放送が出来ないとオメだから,少しは,こっちのこッテテ考えてほしいのじゃ。なお,コメッ回放送は,佐々木昭一郎『コメス・トト・イケヤ』(イタリア賞・トレオ放送)を予定。カセッテ人レコを持っているか借りられる人は申で,このテープを試聴したい人は今号の発送日から1週間以内に申し込んで下さい。

小田原局のYOTAは,8月末下記の住所へ移転。

〒250
小田原市栄町2の7の7
青木寮方 池田博明

まえがきにかえて

「男組」の撮影のあと、いま、わたしは、テレビの演出をはじめての転場で、テレビの演出を一生懸命にやっている。仕事じゃないというなら尊敬せざるやいなや、黒沢明の新聞談話に抗してマージャンもやらず、ゴルフもやらず、趣味は貯金と答える。

このごろの映画人は、生活の恐怖にはなんとか耐えられそうであるが、映画を撮らないでいる恐怖は痛切である。せっせと貯金して、自分の金でいつでも映画が作れるようになりたい。

（「シナリオ」75・11月号より）　内藤誠

自然とは、生まれた時から在ったものを指すのだ。去年の夏生まれたぼくの赤ん坊にとってTVはもはや自然の一部なのだ。

（「微熱少年」より）　松本隆

―テレヴィジョンはお好きですか？

―これは国家だ。国家は官僚であり、官僚は……テレヴィジョンの反対のものです。つまりテレヴィジョンのあるべき姿の反対だと言いたいのです。

テレヴィジョンは表現手段ではない。それは証拠には、馬鹿げていれば、そのほど人を惹きつけ催眠術をかけたように椅子から立てなくさせてしまう。（略）

したがって断じて表現手段とすべきではなく、伝達手段と見なすべきだというこのようなものとして扱えということです。その芸術を大衆に語る方法がこれしかなくなってしまったなら、大いに利用すべきだ。（略）したがって、テレヴィジョンでもやはりものごとの精神は伝わっている。

（「ゴダール全エッセー集」）　J・L・ゴダール

おしらせ

千葉の大川義行さんという見ず知らずの方から、「FOLK ART」というミニコミをいただいたのですが、本誌読者へ、このミニコミのバック・ナンバーをプレゼントして下さるそうです。内容は、ちょっと一口では云えないけれど、民俗誌・ルポルタージュ・ジャズ・ロック・TV・映画・童話ともと、実に豊富にしてハイヌロウ。大川氏は佐々木昭一郎「夢の島少女」に少も関係のある人で、「FOLK」には、佐々木昭一郎「夢の島少女」に三篇も掲載されています。他に、天沢退二郎・龍村仁・杉田誠一・小野耕世・内田良平・佐々木昭一郎と「夢の島少女」に少なりとも関心のある人は、ぜひ読んでもらいたいミニコミです。希望者は▼千葉市轟町4の1の7　ルネ企画・大川義行氏へ―送料は切手百円ぐらいだと思います。

林よしおの水晶パックを聴いてる人は知ってると思うけど、ユーミンのファン誌が出ました。希望者は▼東久留米市幸町4の18の4　荒井由実パーソナル・ファンクラヌ　加藤周也氏まで―送料とも百円（小額切手で）。

MONITOR ROOM

★ユーミンをTVで見たのです。彼女が動く姿を、初めてね。今まで、写真でしか知らないでだったもんだから。TBSのモーニング・ショウで、金子信雄サンが毒舌たいて料理作ったりする番組。司会者が、荒井由美さん、通称ユーミンさんへこのサンづけがおかしい。今日のゲストでは信じられなんて云った時は。「ルージュの伝言」を歌った。間奏の時、なんと2回もあられもなく腰をふってツイストをやってくれて、ま、初見参は、びっくりしたなァ、モウでありました。

（4／26・香川・山内　豊）

★最近、最もオンボロ・ステレオを占拠しているのが、ユーミンのファーストB面、ベルベット・イースターで始まるやつね。どういうわけか、このB面ばかりを聞いている。だから「白い華燭」という見たくもないTV番組を見てて、喫茶店の場面で"夜明けの雨はぶどう色…"なんてメロディが流れると、思わずヴォリュームをあげてしまうのだ。途中で切られちゃったけどね。

沢田（幸弘）氏というと「俺たちの勲章」1・2を撮ってたね。その後を山本迪夫氏がバトン・タッチ。山本氏の画面はとてもなく構図がきれいで、何故か豊橋が出てきて、海と砂を描くその眼は非常に澄んでいた。この「俺たちの勲章」は、アイちゃん（坂口良子）も出ているし、きっとYOTAがまとめてくれるだろうと期待。

（5／3・山内　豊）

★5月8日、テレサGで安田南が登場。「サマー・タイム」「LOVE」「赤とんぼ」「ザ・ムーン」を唄う。芥川隆行がしゃべくり、彼女の男遍歴あるいは、煙草の煙を強張し、興覚めの質問をぶつけて、彼女の唄にかぶせて、ようにいとかわす。安田南は相変らず、声はのびやかだった。

（山内　豊）

▲上の写真は、ユーミンの写真の中で、ぼくが最も好きなひとつ。シングル「やさしさに包まれたなら」のジャケットに使われています。「白い華燭」の後番組では、ユーミン自ら音楽を担当するそうです。

★"MONITOR ROOM"は、私にとって、ちょっと痛いコラムです。誤解して、通じないくってミ。私は、自分に自信がないから、誰かが何かいうと、すぐその通りだ、もっともだと

思うんです。それではいけないと、いつも思ってるので、MAO先生のいうことを、簡単にその通りだといわないように決心したんです。もちろん、いつも反対のことばかり、いっているわけではありませんが。私は、いつまでたっても、こども、アグネスみたいに「成長中」とはいえない。これ以上、大人になれないかもしれないもの。自分のことも、よくわからない状態です。他人のことをわかる、とは、いえません。

（5／28・兵庫・津田裕子）

▼人間と人間のあいだのコミュニケーションができるということは、大ざっぱにいえば、互いに神になることなんだが、残念ながらわれわれは赤ん坊として生れるわけだから、なんらかの手段なしには神になれないんですね。

埴谷雄高（「終末から」73年8月号）

★SFというのは小生も好きで実に面白かった。La Lumière でも〈漫画映画〉特集を組もうかと考えているところです。目下、ロボットをも含めた形で、人間の次の進化を考えるべきではないかというような着想にとりつかれていて、チャペックの「R・U・R」を肯定的に読みかえるようなSFを期待しています。

（5／29・福井・佐々木毅）

★僕の方は、相変らず"オレは映画なんかちっとも愛しちゃいない"と、ぶつぶつぶやいています。石上大先生とのケンカのきっかけもそれでした。俺は"映画ファン"になんかなりたくないのだ。"きちんとした仕事"をしたいのだ。などなど、メロメロではあります。

（5／30・東京・川本三郎）

▼グチをこぼすな汗流せ
仕事残すな金残せ――ぼくがバイトしてる店の事ム室の壁にはってあるメイ言。負けそオ。

★ぼくは「レッドバロン」も「ヤマト」も見ていない。苦手なんだね。たとえば、ぼくが兵器というメカニックに対して嫌悪がある、と書いたら、MAOがメカニックに対する嫌悪はなく殺そうと思えば何でもできる、と書いてきたね。一瞬ドキッとしたし、つらつら考えなくともそうなんだね。あれ以来、少しばかりメカニックに対する愛着を（信頼を）感じている人間たちを見たり読んだりするのが、少し自分でも馴れてきた。MAOのいうSF、スペキュレイティヴ・ファンタジイに納得。これならぼくもSFが好きになれそうだ。

アグネスのイラスト、良かったよ。誰が書いたのかしらんなどと思ってたら、MAOだったんだね。多分、あの絵のアグネスが笑いながら見ているのは、「現実」なんだね。

今、ぼくが何よりのトリコになっているのは、反日武装戦線の報道。

（6／1・山内豊）

▼この前の〈4＋2〉を出した後、YOTAから、ヴォネガットJr.の「タイタンの妖女」（早川SF）をいただいたので、即読んでみて、またまたオドロキ。いったい、ヴォネガットさんの

アタマの中は、どうなっているのだろうか？とにかく、この「タイタン…」が最近ぼくの読んだ本の中では、いちばん大好き。このSFの中に、人類よりもはるかに進化した「生物」たちが出てきて、ぼくはロボットにすぎない人間に対する愛着を増した。というのも妙だが、ますますメカニックに対する愛着を増した。というのもいわゆるようするに、ぼくは、ついがウサギ手づくり」というやそんなニュアンスを云う人こそ、メカニック信仰から脱け出せないのではないだろうか。アンドロイドは電気羊の夢をみるか？フーム…。

これは、TVやミニコミにも関わってくることかもしれない。小さければ、いいものが作れる、なんて考えは、信用できない。例えば、NHK特集「どこかで面白い半分」6月号のNHKはピッカピカの巨大なビルの中で番組を作り、コンピューターの管理によって電波を出しているからダメなのだ。みなさんおっしたいなことを、やっているけれど、大きいからダメだとは限らないし、小さくてもダメなものはダメなのだ。マスコミがダメなのは、むしろこういうことを云う評論家や放送関係者が、活字や電波をメシのタネにしているからだ、というべきではないでしょうか？ハテ。

コンピューターにしたって、まア、けっこうなことというか、仕方ないことだ。いろいろな意味で、へみやすさ」が最優先されるのがTV、とくにNHK。TVなのだし。草創期の、メチャクチャだったTVをなつかしんでも始まらん。当時、ぼくらは、「そのましばらくお待ち下さい」が、何分間続こうが、画と音（アテレコ）がシンクロしないまだろうが、熱心にへみ苦しいTVを見守っていた。あの時はあの時、今は、この時だ——。

☆日頃、まるで意見の一致をみない、黒田邦雄・秋本鉄次両氏との舌戦、唯一はじめての満場一致の絶賛は「パンチ・DE・デート」。

（6／2・東京・北風　哲）

★早川書房へ、「猫のゆりかご」を品切のままにしておかないで！そして、K・ヴォネガットJr.の未訳作品を出版して！と、ハガキを出したら、すぐ返事がきた。「猫のゆりかご」にはふれてないが、処女長篇「自動ピアノ」が月末に文庫で出版予定、「チャンピオン家の朝食」は版权者・出版予定は、まだわかりません、「ローズウォーターさん…」は、出版予定なし、とのこと。

SFは刺激的なことが、多いな。意訳の冒険であるSFがもちろん、いちばんいいのだ。ヴォネガットJr「母なる夜」（白水社）を読了。日本の戦争責任論、転向論の次元を超えてる。「母なる夜」に「ガットが意訳してついたモラルはだるとそのものにかのふりをするかは慎重に選ばなくてはいけない」というもの。

（6／7・小田原・池田博明）

▼ヴォネガットの「自動ピアノ」は、まだ出版されないもよう。予定は、あくまでも未定、ということか。

☆人は、ほんとうは黙るべきなのだ。なのになぜ言葉をたれ流

してしまうのか。書いたものと本人とのあいだに無限の距離があったらどんなにか、いいでしょう。…かといって黙りこむほど強くもない、なんとか、沈黙とウラハラの圓兄舌はないか、そんなことを考えながら「言葉」を探しているつもりなのです。

（6／8・東京・川本三郎）

▼私の言葉は完全に消えた。いま、私はようやく、あなたたちと共生できる。

川本三郎「エルフェウスの果てで」（季刊「NW-SF」72年9月号）※「エルフェウス…」は、川本さんのSF短篇です。本誌No.4に引用した川本さんの文章と、右の一節を照し合わせると、フム。

★今回はSF2本立ですが。このジャンルはあまりよく知らないので、謙虚な気持で読ませてもらいました。不思議なことにレッドバロンの方はみているのですが、何かしら、やたらと画面が飛躍的に変るのが頭に残っています。

そして、アグネス・チャン。僕も大ファンです。「アグネスからの贈りもの」は、アグネスしょうがないのだけれど、みたくてだにみられず。あたしや、ニヒルになるよ。LPは2枚組のと、「小さな恋」のおはなし」を持っていますが。アグネスの言葉にはウラがない。スキと言ったらスキなのだし、キライと言ったらキライなのだ。言葉が、文字どうり、そのまま心の具象化なのだ。ただ、そのことからアグネスは幼児の純粋さみたいにはならない。幼児とは大人の対概念なのなかでしか成立しない。アグネスは、アグネス自身なのである（この辺は、何を言ってるのか、自分でもよく解らず！）。アグネスは白昼の妖精なのだ。尚、アグネスについては「ロビタ」の方でも独自にオマージュを展開するつもりです。

「放送批評」6月号に「日旺日には TV を消せ」のことについて、鳥山拡なる人物が書いています。しかし、何って言うかいろんな読み方があるものだと感心。

（6／10・千葉・谷川照好）

（▲イラスト＝山内 豊）

アグネスのLPでは、テインパン・アレイが、バックやアレンジを担当した「あなたとわたしのコンサート」を、スイセンにいたします。このアルバム制作に加わったミュージシャンは、相実にソウソウたる顔ぶれで、納得当に音にウルサイ人にも思いますし、ていただけるものかと。ハイ。ぼくは、アグネスのだ。自身のオリジナル曲「とても好きなのだ。」が、とても好きなのだ。

「宇宙戦艦ヤマト」（監督&デザイン設定＝松本零士）

オリジナル・デザイン画（縮刷）★提供＝徳木吉春氏.

☆実は今まで一番うれしかった特集だと思っています。私の好きな怪獣特撮もの「ウルトラマン」「ウルトラQ」「ウルトラ警備隊」「ウルトラ大作戦」「ウルトラ怪奇大作戦」「ウルトラ7」「ウルトラ警備隊」「ウルトラ警備隊」「ウルトラ警備隊

▼「吃音学院」というのは、ぼくは、まだ読んでないけど、小島信夫が、大マジメにヘコトバ〉に取り組んでいる作家だとわかるようなテーマみたい。吃音とはドモリのこと。

もし何か言いたいことがあれば解決は一つしかない。それを言うことです。

J・L・ゴダール

★最近はできるだけTVアニメを観ようと心がけております。「ヤマト」も何度か観ましたが、かなりのハイ・レベルに驚き、全く関係ないことをフト思い出しました。たしか同じ時間帯で日本男子バレーボールの合成アニメがあり、そのラストにも、ミュンヘン・オリンピックマデアトロニチ：とテロップが出たことです。男子バレーを東京オリンピック前から秘かに応援していた私にとって、あの合成アニメは、かなり印象に残っているのです。

トンチンカンなこと書きます。へいま〉を語ろうとすれば〈過去〉をも語らなくてはならない、と思います。むずかしいことは少しもわからないけど、一人一人生きてきた道が違えば同じものを見て同じように感じても同じように表現するとは限らないし、結局、私は前を向いて歩ける人が羨ましいなァ。

（6／23・札幌・鉄屋彰子）

▼ぼくもトンチンカンなことを書きますと、何かを表現するということは、同時に何かを隠し持つということではないかと思う。

★森崎東の「時間」感覚は、いいよ。「街の灯」↓失われた時間。失われた記憶、失われた時間。失われた正史〈移民〉、失われた時間。失われた凡土、故郷、失われた時間。

「特出しヒモ天国」↓老婆。子供たち。説教僧。老婆と子供には、共通項がある。それは何？ろうあ者の夫婦の子供↓病院での出産、赤子の声。「ろうあ者の子供でも、うぶ声をあげる子は、ろうあ者ではない」↓涙、涙。

ベスト・ワン「特出しヒモ天国」森崎さんの映画に、どうして心うたれてしまうのかな。再度向うてみる。

6月22日（日）"ヤング・イン・パルス"（TVK）に、ユーミン出演。"雨のステイション"は、これまでの延長線上にある曲だと思えた。その深夜、エ藤栄一の「忍者秘帖・梟の城」（'63）。エ藤栄一の映像感覚に敬服。

（6／24・小田原・池田博明）

★SFとアニメについてのMEMOIR。よかったよ。「タイタンの妖女」「猫のゆりかご」等々。早く読みたいと思いつつなかなか果たせない。でも、人がイイ、イイと言ってるのを、フム、フムと聞きながら、いずれ読みたいな、なんて考えているのもいいもんですよ。なんとなく豊かな気分になるの、不思議。気に入るのがわかりきってる、という感じ、ヘンかな？

（6／27・東京・内海陽子）

★数ケ月にわたり返事をおくらなかったMeをおゆるしあれ。最終学年に突入したとたん、わけもなく、ぼけっとしている日がつづいてしまっていたのでした。

しかし、夏休み、気をとりなおして…。
（7／8・千葉・斉藤　等）

★ユーミンの唄、「FM東京の特集で聞いたけど、どうしてそんなにいいのかわからない。"ルージュの伝言"というヒットしてるらしいのはアメリカン・ポップスの良さがあったけど、全体に甘くて、たえられん。泉谷しげるとかいうのも大キライ。シクラメンのかほり」を作詞作曲した人も大キライ。井上陽水の良さもわからない。アグネスはちょっと良さがわかる。それでは誰が好きかというとやっぱり夏木マリなのです。夏木マリファン・クラブ作ろうかな。ペパーは余り気に入ってなくて、ロックフォードの方が好き。へンな葉書きを送るけど、これも病気のせい。今度は精神病院から。
（7／13・東京・黒田邦雄）

★ぼくも今、大学4年で卒論をやらなくてはと苦しんでいる次第です。そして、その卒論のテーマというのがテレビを中心としたマスコミ関係について書こうと思っているのです。
（7／15・東京・藤森　覚）

★「日曜日には―」なんて、オヌシ、TVもみんのに、よく書くことあるなー。ワシャ悩む。
7／30（水）「俺たちの勲章」五十嵐淳子ゲスト出演必見！TVは、あと栗田ひろみと吉沢京子とアグネスを見るためにあるようなもんじゃ。
（7／23・広島・平田泰祥）

▼アグネスの目が好き
アグネスの口が好き
アグネスの髪が好き
アグネスのスタイルが好き
―と、いわないでね
これは、すぐ変るものですから
アグネスが好き
いつまでも好き
―と、いってほしい
（アグネスからのメッセージ）

★今日、細野晴臣の「トロピカル・ダンディ」買った。テイン・パン・アレイらしいメロディーでいっぱい。「宵待草」の曲も入っていて、シングルとLP両方とも買ってバカみたいだ!!今月は、やけくそで九千円の「ハリウッド玉手箱」と、カラーTVを月賦で買うつもり。ヤケクソじゃ!!
（7／28・広島・平田泰祥）

▼ぼくの方は、その後、柳田ヒロの3年前のアルバム「EIRO」と、コスモス・ファクトリーのセカンド・アルバム「A JOURNEY WITH THE COSMOS TRACTOR」（謎のコスモス号）という2枚のLP、古谷野とも子のシングル「しあわせ」を買ったのだ。柳田ヒロのLPには石川晶（ドラムス）や、元はっぴい・えんどの松本隆（作詞）が参加。ジャズとロックのチャンポンで、かなりいい気分になるLP。コスモス―のLPは各種シンセサイザーを主に、40種ぐらいの楽器を駆使した、いわゆるプログレッシヴ・ロックで、日本にもピンク・フロイドの小型版（？）ぐらいのグループが現われたといえるようね。「しあわせ」のアレンジャーは赤い鳥のアレンジなんかやって

た人で、この曲もそういう感じです。最近、NHKTVの歌番組で、2回ほど、古谷野とも子をみかけたけど、これぞ女だから末恐しい。彼女、渋谷のジャン・ジアンなんかで唄ってるようだから、誰か聞きに行ってあげましょう。

柳田ヒロは、TBS「あこがれ共同隊」の音楽をやっていて、その前には同じくTBS「やっちゃば育ち」を担当してた。しかし、TBSの連続ドラマというのは、くしだらないのが多いねェ。

コスモスといえば、ユーミンの専属バンド、ダディ・オーエンパパ・レモン)が、コスミックスの元パパ・レモン)が、コスミックスの元パパ・レモン)が、コスミックスの元パ

楽器なわけです。電子音楽の歴史はよく知らないけれど、昔は前位音楽とかキワモノとして、一部でしか使われていなかったようです。例えばSFジェリー・ゴールドスミスがSF映画の音楽に。電子音楽の普及は、アメリカのモーグ博士の画期的大発明、モーグ・シンセサイザーの登場によるわけです。これによって、それ以前の電子音楽よりも、はるかに容易に、ほとんど無限の音を作ることが可能となり、現在では、モーグの他に、各メーカーが、大型小型さまざまなシンセサイザーを売り出している。音作りが容易といってもやはりタイヘンな作業でしかたない。一つの音を、フィルター、何度も増幅したり、オーケストラの一つの楽器に相当する変化させて、ようやく、音が生まれるわけです。

深町純の話では、そしてわが国で彼と、大野雄二、富田勲は三人が、ほとんど同時にアメリカへシンセサイザーを発注したそうで、この三人が、わが国シンセサイザー・ミュージックの草分けなのです。

特に、富田勲のは世界でも三台目、千万円というタイヘンなシロモノ。富田さんはどうか知らないけど、大野さんや深町さんは、何機械の使い方が全くわからずじめ、説明書なんて付いてなくて、お手にのせてわかるものでもないし、人に聞くしかなくて、なんとなくメロディ・ジェネレーターのだから、どうしても動かしてみたくて仕方がなく、スイッチを入れて、電源プラグをコンセントから抜いてしまったりして、音を出したり消したりしたりしてたそうな。ウソみたいな、ホントの話。

日本のレコード屋は、シンセサイザーなど目もくれず、富田さんのLPもアメリカでベストセラーになってから逆輸入されたのだけれど、TV音楽では、かなり前からシンセサイザーが使われていて、そういう点では、TVというのは、ずいぶん前の話で、好きな人が、ついでだけど、大野雄二もぼくの好きなミュージシャンで、主にNTVのドラマの音楽を手がけている。「火(土)」旺日の女レシリーズや、石立鉄男のホーム・コメディ・シリーズなどがそれ。えー、ながながとタイクツな話をしてすみません。

★7月27日号、本日、落手。とても忙しそうな様子が、目にうかびます。でも、がんばって下さい。

放送関係で行きずまっているのは、商業雑誌(?)も同じことです。だから、このあたりが正念場だともいえそうです。

NHK、世界のワンマン・ショー・みましたか？ 水曜夜のロジャー・デンバー。彼とダニー・ケイのかけ合いは絶品でしたね。(8/1・東京・鳥山 拡)

▼カンパありがとう。J・デンバーのショーは、ラスト数分だけみることが出来ました。いっしょに唄ってるオッサンは誰かなァ、と思ってたら、クレジットにダニー・ケイの名が出たのでビックリ。かなり老けたけど、まだまだ元気そうだった。

★来月から新広島テレビが開局

して、なんかTV放映の映画が毎日あるのだアー。なんか、いやは来月は阪妻大会があって、仕や、スケジュールいっぱい、やけくそで、車もいっぱい、やって死のうー。りたいことやっ「ノウ」を取るか、「イエス」を取るか、師フリオ・フレニトは肉う。僕としては「イエス」を取る。ただ、それだけです。

（よ／1・広島・平田泰祥）

☆アイちゃん（坂口良子）の出た「旅ゆけば」のスタッフは、「林で書いた詩」（本誌NO.4）および4＋1で紹介ずみ）のスタッフ。アイちゃんがよかったのだ！深町純はカントリー・フォーク風の歌を作曲して流していた。VTRのとらえた風景は美しく、又、ドラマに見合って、ドラマの転回点で使われており、キャラクターも明確でよかった。しかし、田中陽造が、東芝日曜劇場の脚本を書くなんて、意外だね。市川森一の「林で書いた詩」脚本）

シネマ

現代の若者像を活写

「日曜劇場・旅ゆけば」

都会育ちのひ弱な青年が、教育ママの言いつけに従って、北海道一周のひとり旅に出た。その途中知り合ったヒッピー風の青年と連れになる。過保護、マザー・コンプレックスの典型のような青年と、一見たくましく自由なヒッピー青年の、奇妙な道行き。たどりつくヒッピー青年の生家は、妹がひとり守る小さな開拓小屋。開放的に見えたこの男が実はさびしい現実生活から"逃げていた"にすぎないことを知った都会青年は、寂地になって干し草積みの労働にいどむ——。20日の「日曜劇場」（CBC、後9時）は田中陽造脚本の「旅ゆけば」。

ストーリーは単純だが、現代の若者のやさしさをこれは微妙な複雑な心理をドラマ表現に高めた演出（長沼修）を称賛したい。疲れ果てて倒れた青年の目に、ちらと見えるチウサギ、降り出した雨に、かけてくる娘——旁逸なラストだが、そのような忘れがたいショットが随所にあり、わずか一時間（正味五十分ほどか）のドラマが、出来のよい劇場映画を鑑賞したほどの満足感を味わわせてくれた。テレビドラマの可能性に、久しぶりに希望を持たせてくれた"作品"と呼ぶにふさわしいドラマだった。（き）

「青春映画は面白そうだ。」（篠田三郎・ふいた五十嵐）

「芝日旺劇場の青春映画だった。」（篠田三郎・ふいた五十嵐）

「東芝日曜劇場の青春映画は、又、みごとなき。」（篠田三郎・ふいた五十嵐）

（よ／1・池田博明）

▼ぼくがバイトしてのビルは、豊橋駅前の中にある、ろばたやカニ料理の焼とんだけど、調理場に女性の板前さんというのはあまり多くないそうです。）

☆「日旺日にはTVを消せ」ありがとう。少なくとも2ヶ月に

が一人いて、彼女の名が、子さん、通称アイちゃん。TAが店へ来たら会わせてあげるね。同じビルの地下にはこのバーレストランがあって、ここのバーテンさんが「6人より2人のかもめ」のキメていて、また、髪型、ロヒゲ、サングラスからスーツまで、本人もかなり意識してくりっくりで、ケンカウ。藤竜也そっくりにしてみるとなんだ。役者に酒呑みたいなら、一人で。

☆「日旺日には」TVを消せ」ありがとう。少なくとも2ヶ月に

一度発行するエネルギーに脱帽します。今、頭の中が混乱しています。なにしろ読みこなせないのです。

（8／9・神奈川・金子紀美子）

★あいもかわらず、毎回、ミニコミを送ってくれてありがとさん。批評はともかくとして、毎回、ちゃんと読んでおります。まあ、ご安心を。

話はギャビン・ライアルにつります。かなり前になりますが「深夜プラス1」を最後にゴキゲンで読みました。「ちがった空」のゆっくりした展開にくらべてかなりのテンポがあったし、それに主人公の生き方みたいのが魅力的でありました。

テレビの「アイアンサイド」ついに放送が終了して再放送に入りました。それもいやっぱかりやってるからおもしろいし意外なゲストがでていておどろく。ヌルーイスト・リーがでてて、カラ手をやっているかとおもえば、クインシー・ジョーンズも顔だしてピアノをひいているといった具合。ところで、ある本でこのシリーズのクリエイター、コリア・ヤングが、映画「サイコ」の原作者でスリラー小説の名人、ロバート・アロックの別名であるとかいてあり、おどろいています。

テレビについていえば「プリズナーNo.6」の再放送をワクワクしながらみていました。ある日、突然、情報部をやめたとたん、どこかわけのわからぬ"村"このわけのわからないところ、そして、そのうしろに何がある、だろうかという興味、そして恐怖、こんなものを感じさせるSF的傑作です。

恐怖もの一本、SFというより恐怖の部類にはいる「真夜中の恐怖」という番組も夏休みの特別番組としてやっています。毎回完結のシリーズで、わりといい線いっているし、カレンとブラックのへレン・ヘイズ・パメラ・フランクリン、ディリッズ・パトーン、アンジェー・ディキンスキム・ダービーなんていけっこうしった俳優もでています。

（8／9・千葉・斉藤　等）

▼「深夜プラス1」を映画化するなら、主人公はクルマの運転

TBS 夢TV系「幸福ゆき」主題歌

幸福ゆき

坂口良子・歌

たかたかし・作詞　菊地俊輔・作曲

みどりの風の中に小さな花が咲く日
あなたに逢えるようなそんな気がする
空を仰げば　しあわせ色の
虹にうかんだ　夢一つ
さびしい時が来ても
かなしい時が来ても
いつも微笑みだけは忘れずにいたい

あなたが私を呼ぶ
青空のむこうから
明るい陽ざしの中　笑いかけてくる
空を仰げば　しあわせ色の
虹にうかんだ　夢一つ
いつもなにかを求め
ひとり歩いているの
信じる道をいけば
あなたに逢えるわ

涙はとけて消える若いひとみがあれば
あなたが雲の上でいつも見ているわ
空を仰げば　しあわせ色の
虹にうかんだ　夢一つ
今日も誰かがひとり
流れ星のように
さびしい街をあとに旅立ってゆく

©1975 by T. Taka.

が出来てキャラクターもぴったりだから、ポール・ニューマンを、相棒のガンマンNo.2には、「ジャガーノート」のメカに強くアルコールにヨワいリチャード・ハリスを、というのが、ぼくの考えたキャスティング。

「アイアンサイド」と安田南のファンは、ぜひ、日本語版主題歌レコードを買って下さい。レコード番号は、ビクター・SV・1155。実に、りりしい唄なのだ。

「プリズナー」No.6」は、前のNHKでの放送を、毎回、ワクワクドキドキしながらみていました。No.6「パトリック・マッグーハンが誘拐される直前スーツケースの中へ、奇妙な砂漠の絵をしまいこむのだけれど、ぼくは、その絵のことが、最後の最後まで気がかりでした。「キャッチ22」なんかより、よほどカフカ的(?)な傑作だったと思います。

★山口百恵「伊豆の踊子」をみたのを機会に新潮文庫を買ってきたら、この解説を書いているのが三島由紀夫で、すばらしい文章に瞬間、頭が夏ボケもぶっ飛んでスッキリいたしました。その他川本さんが「JのZ」でとりあげていた「女には向かない職業」が、なかなか良かったです。

(8/10・千葉・谷川照好)

★「俺たちの勲章」は、だんだん粗雑になり、今はもう見ていない。沢田・山本両氏の「俺たちの勲章」でたぶん、といったところ。

アイちゃんが出た日旺劇場「放ゆけば」は、まるでつまらなかった。というより腹が立った。みんな田中陽造(シナリオ)のせい。「旅の重さ」の少年版というには主人公はトウが立ちすぎ、かつその設定がアホらしく、アイちゃんが出てなかったら、ホント救われない。(山内豊)

▼夏休みになると毎年、TVや映画で、なんとなく「旅の重さ」みたいの作るのね。NHKの芸術祭向ドラマでも、「河を渡ったあの夏の日」とか「男一人旅」とか。それにしても、「旅ゆけば」は、ぼくはみなかったけど、大朝日しんぶんしのコラムとYOTA、山内さんと、受け取り方が人さまざまですなー。

★オイラもバイトしとるんヨ。それもなんと、MADと同種のカニ料理屋でさ、商売がタキというわけかア。映画は月5で6本程度。「ガルシアの首」「フレンチ・コネクション2」「新幹線大爆破」がオモチロかった。どっちかというと神宮球場のヤクルトの応援に行く方が多いのだア。

(8/11・東京・秋本鉄次)

▼ぼくは、映画はみてないけど「新幹線大爆破」のサントラ盤シングル・レコード(RCA・JRT・1444)を買ったのだア。山下毅雄や大野雄二のTV音楽でおなじみ・シンガーズ・スリーのスキャット・コーラスが好きなのだア。シンガーズ・スリーは、ユーミンやティン・パン・アレイのLPにほとんど必ず参加している、ワガ国屈指のコーラス・グループであるのだア。彼女たちは、歌謡曲、ポップス、CMソング、TV・映画を問わず、実に中広く活躍しているので、たいていの人は、日に二度や三度は、彼女たちの声を知らない内に耳にしているはずなのだア。

★「JAZZ」の方の連載でふれていた、「女にはわからない」ミステリを読んだ。恥ずかしいと言う意味でも大変面白かった。ヒロインのコーデリア・ジェインが好きだそうで、オースティンの「嬉しかったのだ。

放送女化レ8月号"人物レダー"に市川森一のことを、市川森一本レオが書いている。市川森一は昭16生。それでスジのとおった熱心なクリスチャンだって。学生の頃は、台本が書けるのかな。すごい負乏暮しだったらしい。

ウイリアム・キャッスル「ローズマリーの赤ちゃん」が「EXECUTIVE PRODUCE」した「真夜中の恐怖」(テレビ)本夜の「死者が夜来る」には、怪奇映画制作の社長役で、ウイリアム・キャッスルが出演。スタンリイ・エリンやヘンリイ・スレッサー、ロバート・ヌロックらの短篇を原作にしたりして作られているこの「真夜中の恐怖」GHOST TOKYOは、なかなか面白し。

NHK連続テレビ小説「水色の時」主題歌

白い風よ

桜田淳子・歌

石森史郎・作詞　桑原研郎・作曲

わたしは今　みつめているの
流れゆく　雲の行方を
＊あの嶺を越えて吹く
　ふるさとの白い風よ
　あなたはどこへ　どこへ行くの
　わたしをひとり　ここに残して

わたしは今　きいているの
旅立ちの　夢のしらべを
あの野辺をこえて吹く
ふるさとの白い風よ
あなたはどこへ　どこへ行くの
わたしもいつか　旅にでるの
（＊印くりかえし）

©1975 by S. Ishimori.

リチャード・マシスンの話もあったらしい。

12日は、NHKで「チャーリーズ・ウンドンの放送があるけど、「ゴラフ」ファーザー・パーロ・ヤード」「ゲストII」を見る。時間に間に合うか、11時。心もとない。

（よ/12・広島・平田泰祥）

▼なんか、考えてみるに、ピーナッツ・アニメのタイトルは、まるで「シャボン玉ホリデー」を思い出させるなー。ピーナッツ、ザ・ピーナッツ」ってもいっツの方ね。「ー」だよピーナッツ」なんてねー。

★今日はNHKでピーナッツ・アニメ「ミステリーだよチャーリー・ヌラウンレ」があって、とってもよかったのだ。なんてか、うつみルーシーは実にLUCYで恐いなー。でも、内海LUCYの方がピーナッツのルーシーより、頭はヨイのじゃ！なんてねー。あたしゃ、あのチャーリーよりダメ男なのだ。

★台風一過、少しすごしやすくなりました。おかわりございませんか。私は、相変らずといいたいところだけど、ついにまってしまったようです。冷房病に。私の仕事って、タイプライターとテープパンチャーがいっしょになったやつ（）を打つことなので、それのせいも、少しはあるんじゃないかしら。

あと1年位でやめたいなあ。やめられるかなあ？

私たちが作ってるよミリ映画「殺し屋のメロディ」は、あとビンダグが残っています。4月半ばから、7月いっぱい毎日旺日、撮影やらアフレコやらで京都行き。映画も思うようにみれません。これのラスト、何故かDOC（大森一樹氏）が特別出演しています。前にいったかな。これには、室田日出男・川谷拓三・野口貴史の路氏が特別出演して下さったのです。

（8／18・兵庫・津田裕子）

★暑いですねえ、なかなか涼しくなりませんねえ。どうしたらよかんべえーとダレております。浜部サンとろ回ほどお会いして、いろいろとお話を聞きました。川本さんを主人公によmmフィルムでドキュメンタリー映画を仕上げるとのこと、MAOも協力なさってるとのことですね。8／23に、スピーク・ロウで全員集合、というはこびになるはずですが、MAOは来られるのかな。

相変らずユーミンのレコードを聞いているの？アグネスのために曲を書くんですって？そうよかったね（これは渥美清氏のアクセントで思っておりますのよ。誤解なきよう）。

（8／16・東京・内海陽子）

★ひさしぶりに会ったのに、こちらばかり楽しんでしまい申訳ありませんでした。わが方は、泳ぎを満喫して、これでこの夏は思い残すことはありません。藤田君は、少しも変っていませんね。浜部君も坊やみたいな人だし。映画ファンは、年をとらないのかな。女学校で生物を教えている池田君もいいですね。僕もむかし高校の生物部に入っていて蛾ばかり集めていました。あの頃は、映画見てる友人に、「人間が作ったものを見たってどこがおもしろいんだ。蛾は少なくとも神様が作ったんだ」なんてほざいておりました。

それにしても、あの映画はどうしたこうしたといっているのは、やはりむなしいのだ。僕がいまだに、もの書きに徹しきれないのは、カネの問題もあるけれど、あの、もの書きの空しさに耐えられるだけの辛抱がないためかもしれません。一日、家にいて、本を読んで原稿用紙をうめて……やはり、虚、なのだ。かといって実の世界もしんどいし。梅崎春生の「幻化」とか、井伏鱒二の「黒い雨」とかをまたひっぱりだしてきては、あの古めかしい世界にほっとしています。

自転車を買ったのだ。うれしくてうれしくてひとりでニコニコして乗りまわしています。トリュフォーの「あこがれ」でベルナデット・ラフォンが森の道を自転車でかけ抜けるすばらしいシーンがあったけれど、あれはもう10年以上も前のことなのです。

（8／23・東京・川本三郎）

▼自転車▲

のぼったり
さがったり
まっすぐ走ったり　は
できます

ただ
うまく曲らないのです

私の個性みたい……

（アグネス・チャン「小さな恋のおはなし・PART II」より）

ヨレヨレ日記

▼みんなからのお便り紹介はちょっと中断して、ここでちょっぺんぼくの近況など。読むのがめんどうな人は、とばしてもいいページ。タイトルは、昔、A君という人が作ってたミニコミの連載タイトルを無断借用。

▼ク月31(木)バイト17~22時
ク月の決算↓TV★バイトの休憩時間に寝っ転がって映画の悪いTVでCFなど眺めたぐらいで、特になし。下宿の知人のTVで「雨のニューオリンズ」「アスファルト・ジャングル」放映。ぼんやり眺めただけ。
映画★「ジャガーノート」「エアポート'75」「アメリカン・グラフィティ」「ガンモール」。
日記の深夜(月曜の朝)ワガ国のラジオ放送はお休みになるので、仕方なくFENを聞くと、ダミ声のオッサンがバカみたいにわめいていて、これがウルフマン・ジャックだと知ったのはFEN を聞いてた頃は彼の名前なんて知らず、いやな感じの奴だと思っていたのだけれど、そして「アメリカン・グラフィティ」をみるまでは、そう思っていたけど、この映画に出てきた彼は、アイス・キャンデーなどなめながら、気のいい、ホントはそれほどいつも元気じゃないかもしれないオジサンにみえて、少し好きになった。まア、そういうふうに作ってある映画なんだろうけどミもフタもないけれど。この頃は、あの映画を好きになったり、この映画を嫌いになったりするのは疲れるので、何をみても、ほとんど無感動。
たいてい、神代辰巳「アフリカの光」に、ぼくは、感動なんて、もちろんしなかったけれど、何か共感めいたものを覚えた。この映画は多分、本誌No.1で引用した堀切直人の言を借りれば、これも「無意味の表現」の、ひとつの試みだと思うから。ただ、その試みに失敗しているだけなのだろう。本誌No.2で、少し、神代の語りロ(コトバ)を、「夢の島少女」との引き合いに出したのは、そういうことです。乱暴な結論。神代さんは、映画には向いてないのです。少なくとも、五社の脱けガラの中で作られる映画には。
本★平田泰祥氏から借りた、渡辺温「アンドロギュノスの裔」と、藤本義一「性急ぎの記」。それと、「辭像」ク月号、埴谷雄高「死霊」オ5章。
レコード★O・N・ジョン「そよ風の誘惑」南沙織「シンシア・ストリート」。友人知人からの録音させてもらったのが、ユーミン「コバルト・アワー」とアグネス「あなたとわたしのコンサート」その他シンガル少々。
ラジオ★シュガー・ベイヌのデスポッ曲「ダウン・タウン」とCMが、やたらカッコよくて、いたく気に入った。シュガー・ベイヌは、大滝詠一がプロデュースするニューゲループ。
その他★ものすごく久しぶりに、夜霧をみた。「死霊」オ3章のラストみたいだった。
平田泰祥氏に、2年ぶりに会って、20分ほどダレて話して、別れました。

じゃなかった。YASと会ったのは、6月のことでした。浜部良典氏にはじめて会ったのも6月でした。7月は、誰にも会わなかった。

▼5/1(金) バイト11て15時
二度目の給料日。全額支給されず、60%だけ。残りは次週。遠からず、ぼくの働いてる店はツ
バイトが終ってから、レコード店と書店へ。シュガー・ベイヤのデビューアルバムにしようか、アグネスのライヴ・アルバムにしようか、シンシアの古いアルバムにしようか、日暮らしのアルバムにしようか、冨田勲にしようか、あれかこれかと大いに迷って、結局、出たばかりの、コスモス・ファクトリイのセカンド・アルバムと、柳田ヒロの古いアルバムと、古谷野とも子のシングルに決定。シンシアの「想い出通り」のポスターをもらいました。淡く青い光の中、窓辺にうずくまって、ものを想う、シンシア、なのです。レコード録音用に、カセット・テープ数本をまとめて買い込む。あと、なんだかんだ買い物をする

と、もらった給料は半分になってしまった。エイプリル・ミージックのソングブック・シリーズ「南沙織・オ2集」なんてのも買いました。オ1集は、もちろん持っているのだ。楽譜はもっぱら読めないので、写真を眺めるのだ。

▼5/2(土) バイト11て22時
▼5/3(日) バイト11て22時
▼5/4(月) バイト11て15時
▼5/5(火) バイトOFF
4日前に買ったLPコードと知人の友人から借りた、大滝詠一「ナイアガラ・ムーン」と、佐佐木昭一郎「コメット・イケヤ」その他のLP・シングルを、一日がかりでテープに収録。なんと、7時間もかかった。ぼくはステレオもデッキも持ってないので、これまた、下宿の同居人に借りたのです。

「ナイアガラ・ムーン」は、「シンシア・ストリート」と共に、ぼく個人の選ぶ、本年度ベスト・アルバムの最有力候補なのだ。「ナイアガラ・ムーン」は、A面合せても、たった20数分で、どの曲もみな3分以内に収まる。つまり、シングル・ヒット曲集のスタイルで作られた異色LP。三ツ矢サイダーのCMソングも、堂々と、ポピュラー・ミュージックとして、収められているのだ。歌詞には、ほとんど意味がない。「オストアンジョル・ヒネルトジャーレ式のジョーダンもしくは、コトバの遊び」である。見当外れだけど、大滝詠一という人は、小説を書いていたり、小島信夫みたいなのを書くような気がする。小島信夫が自作を語った文章があり、これはどこを面白いのだけれど、「ナイアガラ・ムーン」の解説書というのも、それに劣らずケッサクです。とにかく、このアルバムは、本邦ポピュラー・ミュージック史上のエポック・メーキングであると断言してもさしつかえないものと信じます。演奏とバック・コーラス＝ティン・パン・アレイ、シュガーベイヤ、ザ・キング・トーンズ、シンガーズ・スリーその他。大滝さんの子供の声も入ってます。蛇足ですが、このLP中の「恋はメレンゲ」は、「ぜひ、南沙織チャンに歌って欲しい曲」だそうで、大滝さんの希望が実現することを、ぼくも願うもので

あります。

▼8/6（水）バイト11～22時
▼8/7（木）バイトOFF
南店以来はじめての全休。板前さんやバイトの人が、どんどんやめて行くので、めったやたら忙しく、従業員一同、過労気味で、やむなく休業。

午前中、苦労してルーム、クーラーの取付け。下宿の某氏が引っこすので、彼のクーラーを安くゆずってもらったのだ。

昼、NHKFMのアグネス特集をカセットに収録。

午後、東宝封切「初恋時代」「青い山脈」なんてエの名見に行く。「初恋時代」は、森昌子ちゃんの「タイヤキ」云々のシーンで場内爆笑。南田洋子がヒスを起して昌子ちゃんをドナリつけるシーンでは、前にいた親子づれの小さな男の子が、「ウチのおかあさんみたいに、なんて云って、ほほえましいのデス。

「青い山脈」は、服部克久（服部良一の息子）の音楽が、実に念入りで感心。演出は、ちょっと松本正志を思わせるところがあって、なかなか見事。美術は、松本正志の傑作「狼の紋章」同様の竹中和雄。「狼の紋章」は、宙空にポツカリ浮んでいる奇妙なカット（信成）がなぜか血が騒ぐのだ!?

▼8/8（金）バイト11～22時
▼8/9（土）バイト11～22時
▼8/10（日）バイト11～22時
▼8/11（月）バイト11～15時
▼8/12（火）バイトOFF
▼8/13（水）バイト11～15時
▼8/14（木）バイト11～22時

13時頃、川本さんが奥さんと二人で来店。明日、渥美の海へ泳ぎに行こうぐ途中。ぼくも休みをとったので、海で会うことにして、川本夫妻はバスで旅館へ。バイトが終って15時頃、今度は二人で浜部良典君がやって来て、浜部君は、川本さんを今昼食。浜部君は、川本さんの回は豊橋口ケムに撮っていて、今回はダベってから下宿へ。新宿のスナックでバイト中の浜部君は、疲れているせいで、話しかけてる内に、コロッと眠ってしまい、寝つきの悪いぼくからすれば、うらやましいような。

▼8/15（金）バイトOFF
浜部君と二人、各々、テレコとカメラをかついで、電車とバスを乗りつぎ、一時間ちょっと、川本夫妻の旅館へ。近くの海で待っている、川本さんの伝言。正午頃、海岸へ到着。浜部君は、写真を撮ったり、8mm浜回したり。ぼくは、川本夫妻がぼくはポケーと眺めて泳いでいるのを、ついでに、これで雨でも降ってげて、義着っ雲ひとつない青空。すが、旅館へ戻って、ビーサングラスかけてたので、鼻だけ陽に焼けてしまいました。

見送ってくれ、川本さんと奥さんが来たコースを引き返しました。浜部君は、東京へ戻ってから、プレミアニー・レディのプアをみると云ってたけど、しよに行くはずだった某氏がいっパスに乗ってくれ、ぼくと浜部君は符を忘れてパアになったとか、切あとで聞きました。

▼8/16（土）バイト17～22時。一日おき連日バイト。8/22（金）ぐらいに予約の団体客があって

おまけに人手は少ないし、やたら労働にはげむ。ことに日曜日など、休憩なしでヌッ通し。いつもなら仕事中に一箱ぐらい喫うタバコも、この日は4本しか喫わなかった。

毎日帰りが遅くて下宿の風呂へ入れないので、昼休みへ15時から)、店のバイト連中と、少し離れた所にある銭湯へ行く。こんな時間に風呂など入っているのは、ヒマのある老人か、水商売の人か、ヤーさんぐらい。風呂帰りに、ヌラヌラ歩いてると、ひじょーにいい気分で、青林堂の長井社長みたいなのだ。少し遠回りしたり、公園を抜けたり、毎日、ちがうコースで帰ってくるのが、また楽し。ウエスタン風の酒場があったり、琴の専門店なんてのがあったり。5年間住んでるのに、ぜんぜん知らなかった店や通りが沢山あるので、いちいち喜んでしまう。

▼8/23(土)バイトOFF
台風6号通過。明方まで強い風雨。寝つかれず。夕方まで眠って。それから上京するつもりがいつも通り目が覚めてしまってぼくもいっぱしの労働者になったのかしらん。スイミン5時間。身体がもつかな。とにかく駅へ出る。新幹線はストップしたまま。いつ動き始めるかわからないま。雨はやんだが、風はまだあるる。下宿へ帰って、久しぶりにラジオでも聴こずえサンのラジオ馬場こずえサンのラジオでも聴きながら休みをすごそうかと思ったが、上京するのは約2年ぶりのこと。せっかく休みをとったのだし、少々ムリしても行くことにする。駅員の話では東海道本線を乗りついで行けば6時間ぐらいで東京に着く由。列車の中でのヒマつぶしに、ロス・マクドナルド「ギャルトン事件」を買った。ほとんど読めなかった。これは、14時半頃、浜松行普通に乗車。浜松で静岡行普通に連絡。静岡までずっと立ったままだ。東海道線上り列車は、くたびれかけていた——(小島信夫「汽車の中」)——というところ。

静岡で、東京行急行「東海」号に連絡。プラットフォームへ飛び出し、階段を駆け上り、反対側のプラットフォームめざし、陸橋を走る。駆けている自分が、ひどくコッケイだ。みんなも駆けているから、おあいこだ。階段を駆け下り、停車中の急行の車内へ。空席を探してどんどん前方の車両へ。ふとったオバサンの向いの席が空いたので、腰を落ちつける。オバサンのとなりには、横文字の名札をつけた、どっかの大企業の幹部みたいなジイサンが二人すわっている。ふとったオバサンは、「わたし細いから三人分」と、ムリな冗談を云って、すみっこで小さくなっている。

20時頃、あたりはすっかり暗くなって、東京着。さて、みんなが集まっているはずの六本木"スピーク・ロウ"へは、どうやって行ったものか。地下鉄には不案内だし、人に行先をたずねるのはオックウな方だし、なにしろ、スピーク・ロウへは、もう三年ぐらい足を運んだこともないから、ちょっと前なら憶えちゃいるが、三年前だとチトわからねェのだ。めんどうなので、タクシーをひろって、六本木NETと告げる。

ここら辺だろうと思ってタクシーをとめると、スピーク・ロウ入口の真ン前なので、我ながらおどろく。

地下へ続く階段をトコトコ下り、ガラス張りのドアの中をのぞくと、三脚立てて8mm回している人がいて、その向うにいる見憶えあるのがマスターの田長二と伊藤勝男氏。中へ入ると、壁際のシートに陣どっているのが、見憶えあるのは、PHCのみなさん—YOTAこと池田博明、LUCYこと内海陽子、クズ鉄こと秋本鉄次、某弱電メーカーに入社して、東京で研修中のタメさんこと中嶋啓介、そして初対面は「ロビタ」編集長倉川照好。それから、よmmを回している浜部良典とスタッフ。それから、本日の主役は川本三郎、ぼくより少し遅れてやって来たのは、川本夫人。以上の各氏。昨日8/22は、LUCYの生れた日なので、ケーキにローソクを立てて、バースデイ。

遅れてのハッピーバースデイ。

8/20は、アグネス20才の誕生日で、23、24日は、日劇でリサイタルがありました。8/28は、ハッピーバースデイ。わが国初の民放TV局NTVと、津田袴子氏の生れた日。ハッピーバースデイ。

一時間ほどスピーク・ロウにいて、ぼくとYOTAだけ、池袋文芸坐オールナイト5本立をみに行く。「野獣都市」「死ぬまで早い」「恐喝こそわが人生」「斬り込み」「反逆のメロディ」。予想外の満員。福田純「野獣都市」—何度みても高橋紀子ちゃんは全くステキで、なのに、この夜の観客のほとんどは彼女を知らないらしく、年代の差を痛感!?それと、この映画に出てくる、夢の島での銃撃シーンは、実にハードボイルドで好きなのだ。現在、夢の島はきれいに埋め立てられて、ゴミの山は、あとかたもないそうです。その上を、小夜子を背負って、ケンは歩いているのです。高橋紀子ちゃんの運転するクルマのリア・シートに、まるくなって横たわっている黒沢年男は胎児のように安らかに眠っている。永遠に。そして、子守唄と夜明けの海。

「恐喝こそ…」は、くたびれているので、みないことにして、ロビイへ出て、YOTAとダベる。事ム所で、文芸坐プランナー加々美統さんのことをたずねると、一年以上も前にやめたとのこと。▼8/24(日)▼どうにかオールナイト買徹。バイトの終った浜部君へTEL。池袋駅で彼を待つ。三人でサ店へ入り休む。それから、浜部君の自宅へ。江戸川を渡って千葉県へ入り、松戸の少し先。なんか、ぼくは、東の海から朝日が昇り、西の山へ夕日が沈むという、実に典型的な小学校校歌みたいな所で育ったためか、校歌も地方によっていろいろあるだろうけど、ようするに箱庭的なのだ。関東平野というのは、実に平野なのだなァと思う。

浜部家から二日酔いの川本さんにTEL。夕方、浅草で会う約束。浜部君の家でいろいろお世話になりました。御家族のみなさんにくれぐれもよろしく。疲れたのでお昼寝。浜部君は、またもや非常に寝つきがよく、ぼくとYOTAは横になって、15時ムダ話。2時間ほど眠って、目が覚める。16時頃、浜部君の家を出て浅草へ。

浅草松屋、つまりLUCYの取場をたずねる。書籍売場で、

単行本になった、松本零士「宇宙戦艦ヤマト」（秋田書店）を買う。LUCYとは、仕事が終ってから落ち合うことにして、一階へ降りて、川本さんを待つ。川本さんは、下駄ばきで現われ、みんなで六区をウロつく。それから松屋まで戻り、サ店でLUCYを待つ。LUCY現われ、サ店を出て、LUCYにしたがって食事できる店を探し、マロマイドで有名なマルベル堂経営するところのレストランへ入る。

この2日間でぼくの胃袋に収まったのは、スピーク・ロウのピラフとビール、池袋のサ店でトーストとミルク、浜部君のお宅でカレーライスと紅茶、浅草のサ店でオレンジ・ジュース、マルベル堂のレストランで洋食弁当てのとビール。疲れてるからよけい食欲もないけど、我ながら少食ねエ。あ、それから、LUCYのバースデイ・ケーキ。多分、このおかげで、ぼくのおなかは充たされたのでせう、なんてね。

20時頃まで話して、川本さんは奥さんのもとへ帰り、ぼくらはLUCY、YOTA、RY（云い忘れたけど、浜部君の略称？です）およびMAOの4人は、浅草花月へ、森崎東「特出しヒモ天国」をみに行く。沢山のエピソードを、フェイドでつづった、わりにこぢんまりした映画で、森崎映画の"理屈っぽい"ところが、よかれあしかれ、カゲをひそめているようにみえる。が、それは、森崎さんの方が、こちらより一枚上手ということかもしれない。

「やさしさは、あらゆる意訳と想像力をきびしくフルに働かせたとき、無意訳のうちに生じてくるものであろう、とおもうからだ。まずきびしくなければそれは生れないし、意訳するとすぐに消えてしまう」「理屈を抜きにして、本当に人の感性に迫れるはずはない、とおもう。この映画（森崎東「盛り場渡り鳥」）で好きなのは、理屈をシンにしていて、骨っぽいところである。」――長部日出雄

再び松屋でLUCYと別れ、地下鉄上野でRYOと別れ、ぼくとYOTAは、国電で東京へ。東海道下りで、小田原へ。真夜中、小田原着。人気のない小田原の街を歩いて、YOTAの下宿へ到着。もとは旅館だったそうで、柱や床板なんか、いい感じに黒くなっている。YOTAの部屋のすみには、引っこして来てすぐ買ったというカラーTV が置かれ、あとは、そこら一面、本や雑誌が散乱。その中から、カート・ヴォネガット「母なる夜」と、ジョナス・メカス「メカスの映画日記」を貸してもらった。

▼8／25（月）バイト無断欠勤日旺の夜、豊橋へ戻り、月旺からバイトに出るつもりだったけど、日旺も新幹線はストップ。で、YOTAのところに泊めてもらい、月旺の朝帰るつもりが新幹線は、午前中、ほとんど運休。午後から、一時間に一、二本走り始めたけど、二百～三百%の混雑というので恐れをなし、しばらくYOTAと小田原城を見学。小田原城の内には、小さな動物園があり、ぼくはこういう場所は大好きなので、動物のオリをのぞいて、天守閣にのぼり（バカと煙はなんとやら）、ベンチで氷イチゴを食べながら夕方まで、ポケーとすごした。

は時少し前、ほぼ平常運転に戻った新幹線で豊橋へ。YOTAが買ってくれた駅弁がおいしかった。2時間足らずで豊橋着。

▼9/26(火)バイト11て22時。
▼9/27(水)バイト11て22時。無断欠勤の分、マジメに労働せねば―
▼9/28(木)と思ったが、旅の疲れが重なってダメ。学校へ出るから休ませてほしい―と店へTEL。もちろん夏休みだから講義などないのは、向うも承知なので、テキトーにゴマ化しておく。そうでも云わなきゃ休めないのだからウソも大便。ウソをつくのはうしろめたいので、ホントに学校へ行って、本誌のバック・ナンバーと、今号の出来ているページをコピイする。こうでもしなきゃ、ミニコミを作るヒマなどないのだ。お許しあれ。ところで、本誌のコピイは、現在のところ、ゼロックスの新鋭機を使っているのだけれど、夏休みで手入れが悪いのか、多分、ピンチ・ローラーが汚れているせいで、今号は、かなり読み辛いところがありますが、お許しあれ。また、字の方も、ますます乱れてまいりましたが、これもバイト疲れのせいでして、まア、どうせ大したことは書いてないのだから、テキトーに判読して下さい。

夜、TBS「家庭の秘密」(なんかヘンなタイトル)を2回。音楽=ティン・パン・アレイの松任谷正隆。主題歌=荒井由実。タイトルだけみて、ユーミンの唄を録音。ボサノバ調の佳曲。ドラマは、少しみてタイクツ。

NHK・FMをかけると、パイヤール室内管弦楽団の特集をやっていて、「夢の島少女」のテーマ曲、パッヘルベルのカノンが流れてきたのでおどろき、半分ぐらいだけど、テープに収めた。

▼9/29(金)バイト11て22時。
▼9/30(土)バイト11て22時。深夜TVで沢田幸弘「関東幹部会」。先週のオールナイトと合せて沢田作品をつづけて3本もみた。やはり、「反逆のメロディ」がベストかな。
▼9/31(日)バイト11て22時。

三度目の給料日。9月は客の入りがよかったので、今回は金額出た。全く、水商売はままならぬ。
▼9/1(月)バイト12て22時1時間遅刻。何がイヤといって、朝起きたくもないのに起きなきゃならないなんて、全く耐え難い。夏休みが終って高校生のバイトが減ったので、また忙しくなる。昼休み、「新幹線大爆破」シングル盤を買って、労音の事務所へ行き、9/15に豊橋であるシンシア・コンサートの前売りを買う。書店で、アーグネスの2冊目のイラスト詩集「小さな恋のおはなし・PART II」をみつけて、即買う。茶店でオレンジ・ジュースのみながら、ウインドウから射し込むやわらかい夕陽をみていると、もう秋かミ。などとガラにもなく感傷的になったりすると、小川国夫「アポロンの島」を思い出したりする。

彼はレストランでコーヒーを註文して、海に向って坐っていた。スイスの女の子が三人斜め前にいた。三人とも思い思いのことをしていたが、一緒にい

る安心感を持ち合っていた。浩は、自分にひとを羨ましがらせるような瞬間があったろうか、とフト考えたが、ない、と思った。いつかわからないが、ひとを羨ましがらせた瞬間があったのではないか……、お互い様なんだ、と彼は思おうとした。

▼9／2（火）バイト11～22時。昼休み、一人で風呂へ行く。整髪料を買おうと思って、フラっと入った店が、カネボウの特約店だったので、「ボンジュール」お目目さんし。

スピーク・ロウで、川本さんが、ぼくの好きなシーズン・ヒューヌリイちゃんが、カネボウのポスターに出てる、というので、東京にいる間、電車の中や駅のポスターをいっしょうけんめい探していたら、いたいた、ボンジュール、お目目さん。彼女は、縮少直前の大MGM映画の傑作「ロリ・マドンナ戦争」のヒロインを演じた、モデル出身の女優で、びっくりするほど少女マンガのヒロインなど足元にも及ばないほど、キラキラ輝く美しいお目目ちゃんなのだ。ポスターでみると、それから、TVのCFも最近みたけれど、映画ほどきれいな目ではありませんが。それにしても、意外なところで再会して、まア。少しふとったかな、お目目ちゃん。

さて、そのカネボウの女店員は、ペラペラと、ぼくが三日でしゃべるのと同じぐらいのコトバを三分でしゃべりまくり、まんまと、かなり高価と思われる整髪料を、このぼくに売りつけることに成功したのであった。

ほんでもって、お目目ちゃんのカラー・グラビアが全ページを飾るパンフをもらった。

▼9／3（水）バイト11～22時。

▼9／4（木）バイトOFF。また無断欠勤。なにしろ、定休日というのが全くないのだし、思うようには、なかなか休めないのだし、こうなりゃ、勝手に休むのだ。とにかく、疲労は蓄積されるばかり。昨日、YASにコピイを頼んでおいたカセット・テープ、ユーミンのLPフアーストとセカンド、細野晴臣「トロピカル・ダンディ」が届いたので、それを聴きながら、ミニコミ作り。出来た分を、学校へ持って行ってゼロックス。

あ、と一考えてみると、この日は、一応、ちゃんと休みをとってあったのだ。なんか、たまに休むと、悪いことでもしてるみたいな気になってしまって、思いちがいをしていたのだ、恐しや。

夕方、コピイ（一回に二百枚ぐらいとるから、かなりの重さになる）を持ったまま、松竹封切「男はつらいよ・寅次郎相合傘」「かもだ！御用だ！全員集合」（そんな風なタイトルだったかな）をみる。寅さんは、少少ヘキエキ。ドリフものの方は、TVでヘンな刑事ものをよくやっている瀬川昌治監督なので、わりに面白し。ラストのパイ投げが盛大。目標！ビリー・ワイルダー、なのだそうだ。

▼9／5（金）バイト17～22時。また朝寝坊―大滝詠一のファースト・アルバムに「朝寝坊」というが曲があるけど、それどころじゃない。中学・高校の頃もぼくは毎日のように遅刻するルーズさだったけど、全くこんなことでは、とてもサラリーマンなどつとまりそうにない。

深夜、NET「ハーツ・アン

ド・マインズ」（アカデミー賞ドキュメンタリー部門受賞・本邦未公開）TV放映。

▼9/6（土）バイト17〜22時。

▼9/7（日）バイト11〜22時。客の忘れ物の中に、チャペック真崎・守「共犯幻想」（ヌロンズ社）の中巻があったので、昼休みに「共犯幻想」だけ読む。なんか、趣味のいい客だ。「共犯幻想」は、本誌でも何度か紹介した斉藤次郎原作。彼のヘ子ども論」を劇画で展開したのが、この「共犯幻想」だと思い当りエリを正して読んだ。「共犯」を、川本さんの云う「共生」と読みかえてもよい。

書店で、村上知彦氏スイセンするところの、松本隆の詞集＋音楽エッセー集「微熱少年」をみつけたので買う。故広瀬正のSF「マイナス・ゼロ」も。

▼9/8（月）バイト17〜22時。

▼9/9（火）バイト17〜22時。また遅刻。「次期社長」を自称する社長の息子（5才）にしかられた。

▼9/10（水）バイト13〜22時。また遅刻。9月に入ってから、客の数は半減。8月は忙しすぎたので、なんだか気がゆるんでしまう。氷商売は、大体、映画同様、8月と年末と正月がピークなのだそうだ。

▼9/11（木）バイト0FF

開店以来2度目の全休。新しく入った支配人が、労務管理みたいなことを、わりにちゃんとやるようになったので、今後は定期的に全休となるもよう。ヤレヤレ…。

徹夜でミニコミ作り。少し眠ってから、学校へコピイしに行く。16時、街へ出て「デルス・ウザーラ」前売りを買う。サ店でトーストとオレンジ・ジュース。ギャラリーを兼ねたサ店なので、いろんな作品が壁にかけられ、ミニコミも少し置いてある。17時半から、「明日に向って撃て！」「クレージー・ボーイ・ミサイル珍作戦」へてなタイトルだったかな）2本立。「明日に一」は、5年ぶりの再見。顔のない追手の一隊は、本当に「機械」そのもの。追手をのせた列車には、林園士の姿すら映し出されず、不気味。〝壁の穴〟ギャングの鼻ペちゃカリーは、「スティング」で、R・ショーの用心棒やってた人。TV「女刑事ペパー」のしギュラー。ポール・ニューマンにのされちまう大男は、昔、TV「ナポレオン・ソロ」でよくみかけた悪役。ボリビアの鉱山主はニューマンとしばしば共演したり、ペキンパー映画でもおなじみの、ストロー・サー・マーチン。

朝刊によると、静岡の清水市で、ビルの倉庫が爆発。地下からメタンガスが出た由。二階の映画館の床がぬけ、一階となりにある映画館スカラ座の壁が吹っとんで、内部はメチャクチャ。このスカラ座へは、秋本氏とニ人で、エリオ・ペトリ「殺人捜査」を見に行ったことがありますが、新宿ミラノ座をひと回り小さくしたような、実にいい感じのミニ・シアターだったのに。

こういう風に、館内は円型で、その後にサ店が付いていて、TVの調整室みたいに、そのサ店のカウ

〈訂正〉
ミラノ座→名画座ミラノ

ンターから、ガラスごしにスクリーンをみることができるのだ。音はモニターの用のスピーカーがあるわけ。だから、映画代とは別にサ店代を払えば、お茶をのみながら、タバコすいながら、映画みられるように出来ていて、こんなコヤは、そうザラにはないでしょー。

▼9/12(金) バイト11フ22時。昨日の徹夜がたたって、新しくフラフラ仕事してたら、何か食わせてやらなくちゃ板前さんが、「ぼくのビフテキを作ってくれた。」と云って、その倍ぐらい作るエネルギーのありそうな、その板さんは、人さし指と中指に、体重をのっけて、小指は折んで、みんなでおいしいとかもんたんに使まと、親指は薬指とくっつけて、ポキポキ、やっぱりばしう本を、もかりは、ちょっとみいけなを。う怪力。

▼9/13(土) バイト12フ22時。BS「パック・イン・ミュージック」が始まった頃から、馬場サンのラジオを聴いていたから、何事にも5年のツキアイになる。とくに馬場サンは、ちっとも変ってない。馬場サンもDJでもないし、TBSのアナウンサーでもないし、全く何でもない。人でなしのもの書きでもない。ロ食べしていないで、一体、どうかと思ってるのだろうか。話しかけたいがまたキレイなほどよそうかたちの寄せる聴取者ハガキ。ほんとうに内せる。

▼9/14(日) バイト11フ22時。3ケ月ぶりに、馬場こずえ女史の放送を聞く。TBS「ASMRT5」。深夜営業ネット2部(ASMRT5)。若いこだまし。

▼9/15(月) バイト。OFF。学校へ。公会堂へ。寄せ近くのスーパーで知り合いの。ジャズ喫茶。とおしゃれな。ジャズ。ドンとこの。ジャズ。ドンとこの。ジャズ。ドンとこの

ミーハーとは、ちょっと違うけれど、ハイヌロウ（？）なるべく多くの人に投票をお願いしたいと思っているのじゃ。

①オープニング（シンシアのピアノ）＝ヌラス4（トランペット＋サックス各2）エレキ・ギター（リード＋ベース）3ドラムス1キイ・ボードとピ3人による演奏と3人の女声コーラスにのせて17才＝を唄いながらシンシア登場。つづいて

②

③潮月のメロディー

④とも

⑤哀愁のペー

⑥純潔＝と

⑦夏のイ終ジ

⑧20才の立場

⑨ゲッツ中ひかえ目な拍手。

⑩ゲッツ・ヒット・メドレー

⑪ゲッツ・ストリングスアレンジ

Pで録音したLP

ロンドン・ベイビー

ダウンタウン・ボーイ

アメリカ・ストリート

ロンドン・ベイビー

ジェルスの曲を2曲。

ト同時にラジオ・ビ

ツトからのリクエスト

ンチ3曲よくきいて

ジ・ヤ曲

ツ・ヤ

ロ・ヤ

ツ・ヤ

ロ・ヤ

ツ・ヤ

ロ・ヤ

車や意味なんて要らないのだ。それにしても、一見ビンボーユスりみたいなシンシアの動きはどこ、なんく不良っぽく(?)みえて、これはRY石から南いも進びシっくりしたが話だけど、羽仁の映画を撮りたがっていた少女のも、シンシアを主役に不良うなずけるのだ。ウム。という

⑫氷の世界 ‖ シンシアが、バンド「ザ・サレンダーズ」を紹介。サックス奏者の一人がマイクを持ってヴォーカルを吹とる。あれだけサックスを吹いてから、これだけ大声で唄えるのだから、やはり肺活量は相当なもの。一旦退場したシンシアは、白いマラウスと白いスカートに着替えて登場。

⑬⑭襟裳岬 ‖ よしだ・たくろうメドレー。「字余りが多くて唄いにくい」とシンシア自身云うように、こういう曲だと、シンシアの唄い方の特徴がよく目立つ。大滝詠一に「シャックリ・ママさんレ」という曲があるけど、シンシアの唄い方が、まさに、その"シャックリ唱法"。

よしだ・たくろう。奴だというだけで気に入らねェ。思ってる人も多いいでしょうし、ぼくにもそういう部分はあるけれど、少し好意的な見方をすれば、彼は荒木一郎と同様、出るクギは打たれる式に、わ、が国の音楽産業の中で、いさか不当に差別されている面もあるようにも思う。

林光大先生が、よしだ・たくろうのCMソングを、かなり高く評価したことがある。この林光の文章は、彼の音楽エッセー集(晶文社から2冊出ている)に収められているはずなので、興味ある方は本屋さんへ。この本のことは、いずれまた紹介する機会があると思いますが。

⑮心もよう
⑯二色の独楽
⑰夢の中へ ‖ 今度は、井上陽水を3曲。⑮⑯は、照明はスポット・ライト1つ、椅子に腰かけて、シンミジミ唄う。

⑱プラウド・メアリー ‖ 演奏のみ。ここぞとばかり・バンドのみなさん・ギンギンにがんばって、すごい迫力。

⑲バラのかげり ‖ 再び退場したシンシア。今度は、「さよならコロンビア」のアリ・マッグロウがパーティの席で着ていたみたいな、黄色いロング・ドレスで登場。

⑳ひとかけらの純情 ‖ シンシアのファンにとっぽくなったのは、この曲がヒットしたころ。

㉑人恋しくて ‖ デビュー以来シンシアのすべてのシングルと、ほとんどすべてのLPを手がけてきた筒美京平(作曲)わっ・有馬三恵子(作詞)に作曲・詞とも若手のほとんど無名の新人を起用した最新ヒット・チューン。

㉒妹よ ‖ シンシアには二人の妹と一人の弟がいて、その妹を唄った曲。例の俗悪フォー ク歌謡とはちがう曲。

㉓早春の港 ‖ ポップ・カントリーとハワイアンが巧みにミックスされた佳曲。

㉔女性
㉕やさしく歌って(キリング・ミー・ソフトリイ) ‖ ロバータ・フラックのヒット曲。

㉖愛は限りなく ‖ 日本語訳のカンツォーネだと思うけど、シンシアのすばらしい絶唱は

これは、YASが送ってきた手紙でのでまかせ対談

YAS「シャロー挑発的な目で僕を見つめて!!」

MAO「何言ってんだ!! シャロは僕を見つめてるんだ!!」

YAS「まあ、どうでもいいけど、何か、悪いコーターンがあるような眼つきだ!!」

MAO「シャロー、やさしくて、美しくて、きっと[illegible]かわいい、目だ!!」 涙

YAS「やっぱり、出歯をむいてる」

MAO「でも、まこねー」YAS「ギャーー!!」

㉗ ボーカルのシンシアは以前から宿命的な感じがするし、ルックスもこの頃はまだ大人っぽくて、ファッションもいかにもスターって感じ。色っぽい好きな人にはたまらないだろうな。

㉘ 当時流行の原点ともいえる曲。ファッションもアーム・ウォーマーなんかを使ってたりして、ちょっとジャズっぽい感じ。シンプルな曲だけど、想い出通り、傷ついた心を癒してくれるような曲。

㉙ 夏の感情＝アグネス「ポケットいっぱいの秘密」と同じ頃にヒットした曲で、こちらは松本隆作詞、松田聖子作曲。「混乱」は、松本隆作詞、松田聖子作曲。「微熱少年」は、ロンドン社刊。980円。読んでいる。

もキンシほ誠本リ アPのてイ25ー参ポネ方ラほ
ャパ アンア・ 降ートレ ーイ日ダ加ッ ンメかも
キ ンラ ンパ ドレ・ ンアル ッイ ッ ッ ッ

そのの時の思索、メロディ
多少フロンティア寄り、願い的に
歌い手のハートで、こうに
っちこれば至上少しこ
寄りにできれ今、
うとこで、まさにシンシアにぴ
たりの曲。

▼9/16(火)バイト11時
昼休み①③読書。
ドイレキ「ダメだ」
ンとはもさりんを
ンにび笞「ダメ」
ンでのら言ンにび
ンでのだ良とのだ
ンでのだ良とのだ
ンでのだ良とのだ

かで名古屋へ逆戻り。なんにもないのに、豊橋くんだりまで足を運んでもらってありがとう。読者のみなさんも、旅行などの際には、少しにんまりしてあったら、ぼくの豊橋で途中下車して下さい。ほいいる店へ寄って、氷旭日以外は、TEL＝ほいまのところ、氷旭日以外は、TEL＝ほいとんど店に出てます。富作。（とみさく）54・3153。名前なのです。つい店の方へのTEL上のでの連絡は、下宿の月旭の間にか氷旭のお願いのTEL方からの10時までの

▼9／20（日）テストを少々。
▼9／22（月）バイトを少々。
▼9／25（木）バイトOFF

久しぶりにノンビリすごす。
デンデンボーイ・ウィザードをみる。勇者のこころが頭の中にあってはいけないのだけど、ジェニーの結果はイマイチ。

ロンドンデルスーパーライトOFF
ゲスト・ヤードレコードおかしなおかしな高校教師。「ロンゲスト」は、これまた「暴力脱獄」と、つい比べたくなって、クールでいいンドルークほど好きにはなれなかった。

▼9／27（土）バイト11〜15時
▼9／28（日）バイト13〜22時
▼9／29（月）バイト11〜15時

レコードを試聴店へ行き、買い物から書店へ寄りレアトを少しして、中本吉田美奈子のアルバムを聴く。ゾンのアルバムを良く聴いてみる。

キーストーン・クリムゾンのキング・クリムゾンのスーパーストーム。

ユーミンの曲をテーマに使ってみる。

ルーツ・ミュージックの日本語訳をみる。

ルーツ・ミュージックの日本語訳をみる。

ルーツ・ミュージックの日本語訳を

みんな、ヌーヌー。
▼10／1（水）バイトOFF
半年ぶりに名古屋へ出かけ、大
きなレコード店でキャニオン
のサンプルを探す。半年前
に、ラジオ局の人に録音した
頭からニンニクの曲は、店
の濡れた砂浜に消えていった。
年前のアルバムに「約束」
「エンドロール」を買った。
「柳田ヒロのテ
イトルトーク」
「ハイロコ
「マイスモスは、タ
スにちなんだ
もの。はっぴい
えんどの調べ
ジャズっぽく
りするような快い音。
担当は、当時じゃ
アメリカン・スクール
ネス、シンシアと同級
米仏混血のロバート・
スタイン君。
それから、名古屋駅裏の取り
残されたような一画にある、マ
キノ劇場という、みすぼらしい
邦画3本立館で、「新幹線大爆
破」をみる。久々に、ジンとく
るような映画をみた。コヤを出
ると、目の前のガードの上を、
新幹線下り列車が通りすぎ、さ
っきスクリーンでみた虚構の方
がホンモノだと思えた。

▼10／2（木）バイト
バイト仲間の某氏から、11て22時
ロ・ストテレオを安くゆずってもボ
らうことにしたので、昼休みに
彼の車で、そのステレオを
くの下宿まで運ぶ。TVセット
は、買ったところで、今のと
ろ、みるヒマがないので、延期。
▼10／3（金）バイト17て22時
▼10／4（土）バイト17て22時
▼10／5（日）バイト17て22時
▼10／6（月）バイト17て15時
国際ギャング終了後、「東映封切
をみる。「新幹線」の健さん
をみなかったら、この映画をみ
ることはなかったろう。もひと
つジンとこないけれど、面白さ
と、テクニックの巧みさでは、
「新幹線」以上。「仁義なき
戦い」シリーズよりも、ぼくの
好みにピッタシの映画。よくま
ア、これだけドンピシャの役者
をそろえたなア、と、ただただ
感心。健さんの右腕ともいえる
サンが（グラスの男（夏八木勲かな
？）すごくいい役。今年度
邦画助演男優のベスト決定！
音楽は、「無宿」に決
ひきつづいて健さん
手がけている青山八郎。新幹線
の映画を
度邦画音楽監督の
の人に内定！
▼10／7（火）バイト17て22時
関西テレビ「ジTVト」追跡
再放送「幻の天使」をみる。佐
佐木守（脚本）ら佐
ヒロイン
の出生の秘密にあ
る。わるメロドラマ仕立のミステ
り。「火旺日の女」シリーズやテ
「赤い迷路」と同じような話。
ゲスト＝坂口良子、大滝秀治、
市原悦子。アイちゃんの役を、
百恵がやって、少しゴ
チャさせると「赤い迷路」になゴ
るわけ。
▼10／8（水）バイト0FF
学校へ行って、今号の「ヨコレ
レ日記」シンシア・インコンヨ
サートのところをコピイ。旧型
のゼロックスを使ったので、
真は、かなり不鮮明。シンシア
ごめんねェ。

▼10/9（木）バイト11時～22時
▼10/10（金）早番のアルバイト
一人でがんばってください
方やめたいと思ったのは
やはりお客様の入り
けっこう多かった
ウエイトレスの
お茶を洗ったり
ッ休憩
タ
ッ
ぼくたちが
くたくたになって
ばかりの
ちょっと
一人
一人
三人
内
何
休み
の
内
タ
ッ
ゴ
ッ
ち
ま
ま
ま

PLAYBACK

ドキュメンタリー No.一七〇

安楽死志願

（NHK 4/11 後7.30）

BY★山内 豊

「私は今が死にどきだと思う」という悲痛な一通の投書をもとに不遇な老夫婦の生活実態を紹介、社会福祉のあり方、人間の生き方をめぐる問題を提起する。

生活保護費、思給・無きよ出年金を受け、都営住宅に住む七十一歳の老女で、彼女は生きたい老人には出来るだけ手厚い保護を、死にたい老人には安楽死をと思う。

新聞のTV番組紹介欄に、右地のような文が載っていた。統一方選挙、前々日のこと。いつものように我が家では、ある。NHKの七時のニュースを見ていた。夕食も終わりに近づいていた。

七時半。突如、TVからビリー・ホリデイの歌声が流れた。

MI LOVE MY MAN……

カメラがある人の投書を写す。

「私は今が死に時だと思う」と書かれた部分に釘づけになる。

母、そしてぼくは三人。父、TVを見ているのは三人。父、母、そしてぼくは番組担当者が、投書の差出人のもとへ尋ねてゆく。近所に住む人たちの声が聞かれる。

「つきあいはないのです」

雨戸が閉められ、老婆が顔を出す。担当者に体を二つに折って、何度も頭を下げる。その深々と哀れさもあきらめも見られる顔には頭は白くふさふさとしていない。

お多ふくろ自分でそろいで刈ったのは少ないシワカッパ頭ろう。

あるいは白目がちな彼女は、女童のような垢ぬけない顔は、まるで汚れてはくだ。女の人趣きがない。脳軟化症とは、夫を見た屋の中に置かれ、煉炭七輪が二つ部彼はまんまるの炭火を指示す。その炭火を彼は心不乱になっておこしている。

来客の方を見ようとも一日見てもあきない

ですよ、面白いですよと彼女は言う。だが、カメラは彼の姿を正面から写すことができない。廃人に対する配慮なのか、それとも、直視することができなかったのか。

この間、少し目を放してたら、炭火を食べようとしたんですよ。止めさせようとしたら、ここへ（額）を思いきり殴られました、と彼女は語る。ひと間の部屋にはふとんや数少ない家財がころ狭しと並べられている。彼女は何枚も着込んで、おまけに厚ぼったい綿入れを上に着ているから、ダルマのようになっている。

この人たちに子供はないのだろか、と母。

なぜ子供なんかあったって、親をぼくは何も思ってない。

るとき、まってくる。こ晩酌をすきまってから、ぼくは何も言わない。父。

にはぼくと足の継ぎ目をくだが寝たきりの八十六になる。我が家

がひとり。一年以上も外の空気を吸っていない。母の母である。

耳が遠くなったから、大声で叫ぶ。

同じことを日に何度言うこ

とだろう。憎まれ口をきき、死にたいと洩らし、延々と幼女のように泣き続けることもある。だが、朝めざめると、南北東西に向かって手を叩いて一日の生をお願いする。そこには何の矛盾も見られない。

祖母・嫁・二人の甥・長女・次兄・兄・母・養子の父・長兄・兄・母の最初の夫・二番目の夫・妾と執念。それらの間を渦巻く血の迷ら・おおよそみじめったらしい私小説を書く材料はそろっている。

プロレス・ボクシング・巨人・相撲・そして絵にかいたような強い母。ホームドラマを好む腕っぷしの有吉佐和子の「香華」に惹かれるとも劣らない祖母と母。巨人を何よりひいきにし、酒呑みで、六十を越えてなお屋根の上で瓦をふき、歌番組を嫌い、冗談がわからず、長兄に未練を持ち革新好きの父。

老婆は言う。死にたい者には楽な死を、生きたい者には手厚い保護を、それがお慈悲というものじゃないですか、と。スイスじゃ安楽死は制定されていますよ、と。

お婆さんはいいところの出じゃないですか、と担当者はきく。すると彼女は笑顔で深々と頭を下げありがとうございます、と言う。もとは大阪の大きな商家の娘だったという。女中は三人ほどいた。英語というのはね、とっつきはいいけど、気をつけなければいけないんですよ、特に文法、グラマーはね。それから英語を流暢に喋り、文法の暗記でうなされ、寝言にまで言ったという少女期が語られる。戦争で焼け出されたという。

この時、民社党の某候補（落選）の運動員がやって来て、票のとりまとめを父に依頼する。ダメとわかっていても来るのである。やつの無恥な大声。

TVの音は聞きとりにくくなっている。お婆さんは「楠山節考」のおりん婆さんに似てますね」ときく。すると彼女は、あたしは自分で死を迎えるほど純情じゃありませんよ、だから殺して下さい、と言う。老人施設指導員の言が流れる。お婆さんにとってお爺さんは生きがいになってるから、そのままにしてあるんです。

彼女たちはひと月六万の暮らし。都からもらうその金を、無駄金と呼ぶ。だってそうじゃないですか、あたしたちみたいどうしようもない者にお金を出すより、これからの人のために使った方がよっぽど意義があるでしょう。

運動員は帰っていった。やつの顔を一度も見なかった。母はかたずけ物をし始めた。

老婆は外へ出かけない。夫がいつ家とともに火だるまになるやもしれないからである。全て匹が取り付けてくれた電話で注文する。カレンダーの厚紙の裏に書かれた、たくさんの店名。それを一つ一つ指しながら、ここにもここにはいくらの借金、ここにはいくらの借金と語る。外へ出かけない理由はもう一つあり、あんたのような人がここにいると迷惑する、などと正面きって近所の人に言われているからだと言う。子供は彼女をオバケと言った。

彼女が新聞に投稿し、掲載された短歌が挿入される。荒川と鉄橋が写る。それは、買い物をしに出た母子の情景を、こんなこと思い入れを排除し、たんたんと歌ったものである。

もう、担当者は質問をしない。

老婆は新聞をひろげ目を通す。夫は終始背中を見せたまま、火箸で炭をいじっている。彼女は新聞をたたみ、傍に置いてあるふとんにもたれかかり目を閉じる。カメラはじっと動かず、同じ位置で写している。

そして再びビリー・ホリデイのMY LOVE MY MAN…が流れてきた。暗くなるまで歌は続く。

もう父も母も画面を見ていないことをぼくは知っていた。讃岐にはポックリ病で楽に死ねるという信仰の寺がある。そこへお参りをした老夫婦の夫の方が帰りの宇高連絡船から身を投げたという記事が載ったことがある。

ぼくの両親とて、生活の不満を言いつつ、革新政党を支持していても、己れの死は身近に置いておきたくないのである。死を望む老婆の存在を、理路整然と内に引き入れることは不可能にしたいのである。

父は席をたち、風呂場にむかった。母は八時から始まるプロレスを見る。ぼくは、部屋にひきこもり、目をこするのだ。

▼今号より新連載「プレイバックL」のページを設けました。メディアの質量を問わず、ぼくの目についたもので、気に入ったものを採録・転載します。後で何を云っても、みんな手遅れ吹きざらし〜ということを確認しながら、ビデオ・テープでもう一度。

第1回は、山内豊氏が編集・発行するミニコミ、MFS(Tiny Tiny Tiny

中学生 いま学校で

～(564)～

'75 春

川柳の教室

名古屋・天白中のA子さんは、NHK総合番組「中学生日記」のレギュラーだ。昨年二月「お知らせ」で募集を知り、自分の意思で応募した。番組は、架空の公立中学二年の一学級が舞台である。

毎回、少年少女の言動や心理を描写する。出演者は、A子さんと一緒に採用された名古屋市内の公・私立中学生ら六十人。毎回、主役がかわる。「いじめっ子」「肥満児」「劣等生」。そのときどきで似つかわしい子が、ディレクターから口説かれる。

A子さんには「劣等生でひがみ深くて、先生にえこひいきされる子をねたむ役」が回った。自分が、そんな人間だとは思わないけれど「おもしろいと思り切って」承知した。

放映された翌日は、テストの日だったが、教室はいつになくうかれていた。先生に向かって、みんなが「えこひいき」「えこひいき」とひやかす。A子さんは、悪い気がしなかった。

制作陣の一人、八重樫克彦ディレクターがいう。「コンプレックスというテーマで、太り過ぎの子を、主役にしたこともあります。脚本作りの段階で、主役にしたい子に、君がこの役をひき受ける気があるなら脚本を作る、と電話しました。その子はしばらく考えてから、この機会を逃したら主役をやれない、と引き受けました」

番組の性質上、出演者の性格はそれぞれかなり誇張される。癖がちりばめられていること、胸のふくらみ具合など、制作陣が役をふり当てかねて迷う場面もたびたびだが、子どもたちは、意外にあっけらかんとしている。「本当に行ってる学校と番組の学校と、二つの教室で別々の自分を生きる楽しさ」をいう男の子もいる。

体育 1 東京都世田谷区の中学校で

オナラの場面で「くさい、くさい」と逃げる役の男の子が、カメラをはずれ、スタジオのすみまで行ってひっくり返り、まだ、大仰にくさがって見せたりする。演技でも地でもない、ふしぎな中学生群像である。

出演者の間で、初恋めいた芽ばえもあった。男の子が積極的に迫ったが、最近、おさまったらしい。八重樫さんは「失恋したのかな」と心配している。この人も、現実とフィクションの間で、先生になってしまった。

それほど、子どもたちはふんいき作りがうまい。

▼流れる花は流れるままで、ジャクリ曲がるくねくねCM。人気急上昇。アンクル・トリスの人気急上昇。(36年・ホントリー)

▼ホントホント ホニュ……と流れるしゃれたホワイトを売ったホニュ。ミー・テーとエス・ユのトドリンCM。(48年・ホントリー)

前回のビールにかわって、今回はウィスキーのCF大会。

幻のスーパーロックグループ
"はっぴいえんど"の……
ファン待望
細野晴臣
初のソロアルバム
HOSONO HOUSE

■OFL-10 ¥2,000

ろっかばいまいべいびい／ぼくはちょっと
CHOO-CHOOガタゴト／終りの季節／冬越え
パーティ／福は内鬼は外／住所不定無職低収入
恋は桃色／薔薇と野獣／相合傘

アグネスからの贈りもの

BY★YOTA★池田博明

アグネスのかいたイラストから、イラストそのままのアグネスが抜け出る。ちょうど「やぐネーズ」のようにジーンズ・トンボメガネのアグネス。このアグネスは、実は人格化されたパチンと指をならすと心〉なのだ。ゆけるへアグネスの心〉思いのところへとんでいくへアグネスの心〉はトアグネスの心〉なのだ。イラスト画から抜け出た暴君の心〉だったのだ。これもやはり「やぶにらみの暴君」の肖像画だから暴君以上の暴君であった。

アグネス本人と同じともいえるし、ちがうともいえる。しかしどちらも存在することにはちがいない。へアグネスの心〉が、あんまり沢山食べたので、アグネスは「わぁこんな食べちゃってミわたしたったら困るワ」と心配したりする。

あいさつ

あなたになにかあげたり
あなたに喜んでもらいたり
でも　私はなにもありません……
ただひとつの贈りもの
それは　私の心です

アグネス　ε五

へアグネスの心〉は、お茶目で活発で、ひとりぼっちで絵を描いたり、海を見つめたりしている。――アグネスが、だれかといる時も、きっとへアグネスの心〉はひとりなのだ。だから

ほんとは孤独なスターの心――なんて描いたわけじゃない。へアグネスの心〉がひとりだからこそ、「だれのものでもない」「わたし」ひとりのアグネスであり、「あなた」ひとりのアグネスでありえるのだろう。

「アグネスからの贈りもの」は、へアグネスの心〉。これは、「あなたし」ひとりへの贈りものなのだ。

「わたし」ひとりへの贈りものなのだ。アグネスは「まだ知らないあなたたち」といった。

「はない。

「いつかわたしの心の中でまってくださいと」いう。「アグネスの心の中を歩いているあなたし」がいわれる。出会うことはないのかもしれない。だが、出会いを信じてにいるアグネスとわたしはたしかアグネスのである。

アグネスの詩が二篇、字幕で現われる。

私の心の中で
月が吹いている
恋が育っている
あなたが歩いている

もしあなたが
心の中を通りすぎたら
ただ足音が残るでしょう
いつか　私の心の中で
とまって下さい

＊　＊

みず色は
かなしい色ですって
ほんとう？
うそでしょう
こんなにすてきな色なのに

みず色は
涙の色ですって
信じる？
信じないでしょう
こんなしあわせの色なのに

どうして
わたしとあなた
友だちになるのが
いけないの
こんなに好きなのに

私はいま涙の中にいる

＊　＊

原一民の撮影のすばらしさ。「雪」が流れるシーンのグラフィック・アート風（水墨画風？）の処理。「ポケットいっぱいの秘密」をバックに「アグネスと

体操しましょう」のコーナーの楽しさ。もの想うアグネスの心。街へ、防波堤へ。そして、ここへ。

構成・脚本＝田波靖男。監督＝山名兌二。製作＝西川紀之。

YOTAのアグネス論の正当性は、松本隆によると、次のように証明される。

すねぐあ

なた草の上
っすり眠ってた
顔やさしくて
きよってささやいたの
ひみつ　ないしょにしてね…
（松本隆・作詞「ポケットいっぱいの秘密」）

ちなみに歌い手が可愛いヒロインである場合、ぼくは「あなたレを自分に想定し詞を書くと彼女は悲劇的な事にTVでラジオで朝となく夜となくぼく個人のために歌ってくれる訳である。大衆とは無数のあなたではあるが、歌手はその無数に対して歌ってほほはいけない。カメラに向ってほえんではいけない。寝転

びながらTVを見ているそのひとりひとりの「あなたレに歌うこと、それが「歌レでありその歌い方によってはじめて言葉たちが生き生きときらめくのだ。（松本隆・著「微熱少年レ）

右の写真は「ポケット…レを歌ってた頃のアグネスとシンシア。左のイラストと、前頁の「あいさつレは、アグネスの自筆で、「女学生の友レアグネス特集より転載。

TEST PATTERN

なんか早い話が、シンシア・アグネス・ユーミンのファン雑誌となってしまうたのじゃ。考えてみると三人ともクリスチャンなのだ。ぼくも改宗しようかしらん？

今日も今日とて、「ザ・スタジテレビ」という新番組へ関西ローカルでシンシアを見た。

シンシアの涙をはじめて見た。

この頃は、いろいろ映画をみてよいこと。

「ゴッドファーザー」「ジョーズ」でそうで、

よそれから：と指折り数えるでみ自由からの逃走」に感心したと「シしか。21やともなると、ややこし

ぼくが最近読んだのは、ヴォネガット「母なる夜」広瀬正「微熱少年」ロス・マクドナルド「ギルトン事件」今江祥智「人間なんて知らないよ」。読みかけの本は「メカスの映画日記」林光「エンビ服とヒッピー」。その他「マンガは、山上たつひこ」「光る風」と「がきデカ」全冊を買ったし、松本零士「ワダチ」①②も買って読んだ。

9/3(水)の林よしおパックで、山内豊氏のリクエストでシンシア「人恋しくて」がかかり、おまけに、予告なしにシンシア本人がTEL出演したのでビックリした。

ビックリといえば、デパート屋さんのパルコ(渋谷・池袋・心斎橋・札幌)が出している雑誌「ビックリハウス」は、面白いので、アグネスやティン・パンやマラッドベリのファンは、ぜひ読もう。

▼今号の補足と訂正▲

P.3「荒井由美」↓「由実」

P.5『自動ピアノ』は、多分、10月に出るはず。もう出てるのかな？

P.18『生き急ぎの記』↓『生きいそぎの記』

P.24「NHK・FM」↓「FM愛知」

P.25「かもだ！御用だ！全員集合」↓「ドリフのカモだ！御用だ！」

P.35『ジャガー・ノート』↓『ジャガーノート』

今号の編集に手をつけてからもう2ケ月以上がすぎてしまった。ノロノロやっている内に、みんなからの手紙と、ぼくの身辺雑記だけでも、かなりのページとってしまい、気がついたら、本誌はじまって以来の"大冊"になった。ものはついでで大冊"にしてもよいのだが、これ以上は、製本が困難になるため、ここら辺で一応終りにすることにする。ヒマをかけたわりには、雑な出来だが、雑だからなのだ。

雑誌次号は、YOTA編「座頭市物語」か、MAO編「都会の二つの顔」特集の予定です。

★諸般の事情により現在やってるバイトは今月でやめるかもしれないので店へTELしてくれても連絡がつかない場合があります。念の為。